

市民と市役所が

ツナガル通信

発行日：平成 28 年 7 月 20 日

発行元：ESD・市民協働推進センター

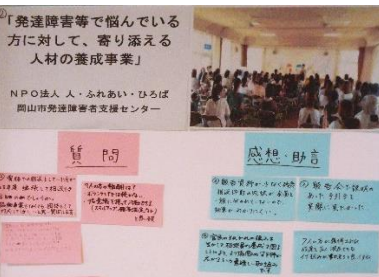
岡山市役所本庁舎 2 階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589



Vol.14

平成 27 年度市民協働推進モデル事業/ニーズ調査事業報告会を開催しました！



「市民と岡山市が一緒に課題を解決する！」7つの市民協働推進モデル事業と2つのニーズ調査事業の報告会が開催されました。冒頭、「4月1日施行の協働のまちづくり条例を共に活用し、新しい岡山市を創っていききたい」と奥野市民協働局長。3時間にわたる報告が短く感じられる報告会でした。

協働事業が、解決のために挑戦した課題は⇒◆LGBTQ、性的マイノリティ当事者の実情◆子どもの虐待予防◆発達障害等の当事者と家族◆マンションの老朽化と自治◆M字カーブ女性の再就職◆孤立する児童養護施設退所後の子ども達◆不登校・引きこもり支援の狭間◆中学生の職業観・自己肯定感・地域愛。

女性の自立支援や、養護施設退所後の子どもの支援など、モデル事業から市の一般施策となったことや、モデル事業の実施を通じて、団体と行政との信頼関係が築かれ、事業終了後も課題解決のための定例的な協議を継続していることなどの報告もありました。また無関係な課題や取り組みの中に、共通する課題が見えてきたりし、解決すべき課題のこれからを考え、協働の在り方を学びあうことができました。行政だけでは見えない課題、市民だけではできない解決が、協働の力で動いていくことを実感した報告会となりました。参加者から74枚もの事業へのコメントが寄せられたことにも、取組への関心の深さがうかがえました（参加者のみなさんからのコメントは実施団体にお届けしました！）。

さて、今年でモデル事業提案制度も3年目。ニーズ調査事業とあわせ、市民協働の可能性を広げてくれることが期待されます（わくわく！）。

（開催概要）

日時・会場	平成 28 年 6 月 29 日（水）13:00～16:30 岡山大学鹿田キャンパス内 Junko Fukutake Hall
参加者	121 名（NPO 等市民 60 名、市職員 61 名）
アンケートから感想の抜粋	<p>（良かった点）「事業内容の説明が分かり易かった」「良い取組みがあり、事業化される方向であるので行政担当者として希望が持てる」「協働の在り方を考える上で参考になった」「実施団体と担当課それぞれの声が聞けた」「協働の大切さ、意義を改めて知ることができた」</p> <p>（学んだ点）「（職員の異動による）担当者の交代で業務が停滞したり進んだりする」</p> <p>（改善点など）「協働のプロセスについての報告がもう少しあった方が参考になる」「どこがどういう風に市民協働なのか分かりにくい」「課題や成果を聞いて良かったが改善策までもっと聞きたかった」「発表者と話し合える場や交流会があるといい」</p>

※ 27 年度モデル事業の内容は「つながる協働ひろば」をご覧ください。

<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/folders/115>

平成 28 年度「市民協働推進モデル事業」のご紹介 Vol.1

岡山市各課と市民（NPO法人、市民活動団体等）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成 28 年度採択事業の取り組みをご紹介します。

事業名 『里親委託を推進するための、里親制度の普及啓発』

一般社団法人ぐるーん × 岡山市こども総合相談所

岡山市で約 300 人の子どもが親と離れて施設等で暮らしています。里親のもとで暮らしている子どもは 11.8%と全国平均 15.6%を下回り、政令市の中でも 14 番目となっています。一人でも多くの子どもが家庭環境の中で生活ができるよう里親登録数と登録希望者の養育スキルを高めることを目的に協働事業を実施しています。里親制度に関する講座・座談会の開催、市民目線の説明会の開催、パネル展の開催、また、施設で暮らす子どもとの出会いやきっかけづくりのワークショップを開催し、里親制度への理解と関心を高めることを目指します。5 月に児童福祉法が改正され里親委託を施設入所よりも優先させることが国や地方公共団体の責務とされました。

第 2 回里親講座と
座談会は、10 月
30 日（日）です！

里親講座と座談会 第 1 回「短期間の里親について『里親ってなあに？』」

7 月 3 日（日）に吉備公民館で第 1 回里親講座・座談会「里親ってなあに？」が開催されました。冒頭にこども総合相談所の江田所長代理から、岡山市では児童養護施設に入所中の子どもを夏休みなどの数日間、家庭生活を体験させていただく一時里親制度も実施していると説明がありました。



講師に金香百合さんをお迎えし、家庭で育つことが出来ない子ども達が全国に 4 万人いて、その 9 割が施設で生活している現状や、視線が合わず、自分の意見を言えなかった里子が徐々に変化していったというご自身の里親体験についてお話し頂きました。その後、7～8 名のグループで座談会を行い、ぐるーんメンバーや

里親経験者と里親に関する疑問や不安を共有しました。第 2 回も金香百合さんをお招きし、より深く里親制度について学びます。詳細は「つながる協働ひろば」のホームページでお知らせします。

協働のすすめ ～岡山市職員インタビュー～

こども総合相談所所長代理 江田始男さん



NPO 法人、市民活動団体等の協働相手に求める新しい役割や期待することは何ですか？

これまでの行政主導の里親説明会等では、里親に興味関心のある市民の方の参加を受動的に待つということが多く状況でした。今回の市民活動団体との協働により、団体独自のネットワークを通じて幅広く、多くの方に働きかけていただくことにより説明会等への参加者が増加するのではないかと期待しています。それにより里親制度の理解が市民に広がり、里親希望者の増加のみならず、市民の方に里親をバックアップしていただけるような意識を持っていただけたらありがたいと思っています。

さらに、ありきたりの行政説明会ではなく、団体の経験を生かしたイベント等と融合させた新たな形の説明会等を開催することができるのではないかと楽しみにしています。

協働を通じて、どのような効果が生まれましたか？

このたびの協働事業については、すぐに効果が目に見えて現れるとは限らない事業だと思っています。とにかく多くの方に参加していただいて里親制度や社会的養護への理解を深めていただければと願っています。

よりよい協働の実践に向けて、今後の展望をお願いいたします？

この事業は継続的に行うことで一層の効果が生まれてくるものと思っています。継続実施のための問題点や、ノウハウなどについて、市民活動団体と協働で研究していけたらと思っています。